



Title	浦島伝説、海部・高橋連蟲磨作歌
Author(s)	八木, 穎
Citation	語文. 1955, 16, p. 29-38
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68489">https://hdl.handle.net/11094/68489</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

### 【三八頁、「浦島伝説」つづき】

歌が添へられるといふ段階である。第五の段階はすでに平安期に入り、支那晉唐小説の文体・構想・神仙思想がぐつと強く働き、やがて「蓬山」における不老不死の「靈薬」が登場し、伝説の主人公がやがて仙界の人と化し、それを信仰の対象にして利益を得んとするに至る段階である。その後、結末がめでたく大団円に終るやうになると共に、動物報恩説話が加はつたりするやうになり、やがて不老長寿の神として「浦島明神」が信仰せられるに至り、それを当世と結びつけて中世の「浦島はなし」は展開してくる。かくて浦島伝説は、支持者や、信仰内容は变つても、その原初から信仰によつて支

へられて來たのであつた。

第二・第三の段階においては、浦島伝説は、たしかに「歴史」として受取られてゐたとも考へられるのである。

以上、些か雑駁な記述になつたことを耻しく思ふが、先学諸氏の御教示に導かれて、ともかく浦島伝説の史的な問題や、蟲曆長歌のことなどについて述べたのである。  
—大阪大学助手—